



三春中学校だより

第 19 号

発行日 令和 元 年 7 月 1 8 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【こころ一つに！ ～仲間と共にあることの喜びを心に、6分間の演奏に取り組みました。～】

7月12日（金）は、第57回福島県吹奏楽コンクール第37回県南支部大会の日でした。これまで積み上げてきた練習の成果を発揮すべく、学校で練習や最終調整に臨んだ後、郡山市民文化センターに出発しました。出発前のあいさつでは、個人のパートの演奏をがんばることはもちろんですが、一緒に練習に取り組んできた仲間と共にあること、こころ一つに演奏することをぜひとも心がけるよう吹奏楽部の子どもたちには伝えました。

会場にはご家族のみなさんもおおせいお越しになり、吹奏楽部の部員たちの演奏を応援してくださいました。部員のみなさんの感想は聞くことができませんでしたが、帰り際、ご家族や保護者会長さんとお話しする機会もありました。その演奏はたったの6分間でしたが、ご家族のみなさんにも私にも、三春中学校代表としてとてもいい演奏だったように聞こえました。優しくて温かくて、とてもよい音のように聞こえました。

吹奏楽部のみなさん、これまで本当によくがんばりました。みんなの音の一つ一つが一つに合わさってすばらしい音楽はできあがるのでしょうか。これからも自分が選んだ吹奏楽という道を最後までがんばり通していただきたいと願います。



【朝露にぬれて2輪の美しい花が咲きました！ ～仲間を思う温かな心を味わいました。～】

7月17日（水）の朝は霧雨でした。校庭の草花は朝露を身にまといきれいに咲いていました。いつものように校門に立っていると、一人の女の子が友達を待っていて、その子が登校すると一緒になって校門を通り過ぎていきました。ところが、2人の女の子は再び校門に戻ってきて、私と反対側の門柱に立ち、何かを待っている様子でした。



しばらくの間、3人並んで他の登校してくる生徒たちを出迎えていました。忘れ物でも持ってきてくれるのを待っているのかなあと思い、しばらく一緒にいましたが、どうしてもなさそうだし、我慢しきれなくなって、「どうしたの？」と2人の女の子に尋ねてみました。女の子が言うには、「けがをした友達の荷物を持ってあげようと思って。」という返事でした。やがて待っていた友達は登校し、2人はその子の鞆とバックを持って寄り添いながら3人で校舎へと向かっていきました。

三春中学校には、そんな優しい心もち、相手のことを考え、それを行動としてきちんと示すことのできる生徒がいます。『命の輝き』～共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに～に照らし合わせても、ぴったりとそれに当てはまるような光景が目の前で繰り広げられていました。曇り空の天気でもここからは晴れ晴れとしました。ふとグラウンドに目をやると、きれいな2輪の花が美しく咲いていました。ひっそりと控えめに。

【第2回学校運営協議会開催！～地域のみなさんと一緒に学校づくりに取り組みます。～】

学校運営協議会委員21名中18名、出席率85.7%のご出席をいただき、第2回学校運営協議会が開催されました。新野委員長さんを中心に、これからの学校と地域の在り方などを視野に、三春中学校の学校運営協議会がどの方向に進んでいったらいいのかについて話し合うすばらしい機会となりました。

第2回となるこの日の学校運営協議会では、各委員のみなさんには事前にアンケートをお願いしました。アンケートの項目は、第1に、「中学生に知ってほしい各地区・地域の歴史、文化、伝統、場所、人、物、事柄など」について、第2に、「地域行事への参加や学校と地域との連携の在り方など」についての中学校への要望などについて、第3は、「地域と学校の協働について」でした。

第1の「中学生に知ってほしい各地区・地域の歴史、文化、伝統、場所、人、物、事柄など」では、三春の歴史（愛姫、田村氏、秋田氏、佐久間庸軒、河野広中、寄合餅、長獅子、自由民権運動、安寿

と厨子王伝説、化け猫騒動、自由民権運動、三春ダム建設、町づくり協会による各地区文化祭などの情報が寄せられました。各地区において他に誇りうる、興味ある情報が多く寄せられました。

第2の「地域行事への参加や学校と地域との連携の在り方などについての中学校への要望など」では、お金や経済活動に関する学習も必要ではないか、障がいをもつ人との関わり、地域防災の担い手として、地域住民が学校の実情や課題について理解する場、地域を思う心を育てる学習なども必要ではないかというご提案をいただきました。

第3の「地域と学校の協働について」では、部活動における先生方の負担軽減、学校・PTAから地域への要望を出してほしい、学校による「地域学」の時間と場の設定、中学生との意見等のキャッチボールができないかなどのお考えをいただきました。

子どもたちは将来の三春町を担う人材です。その子どもたちに郷土三春を愛する心を育てる教育の充実は、将来の三春町の活性化につながるはずです。地域のみなさんの代表でもある学校運営協議会委員のみなさんや保護者・地域のみなさんと一緒によりよい三春中づくりに努めます。



【バックアップ！ ～チーム全員で戦っていました。～】

7月13日（土）は、野球部の参加する民報杯の日でした。七夕の日の常葉運動場での1回戦。常葉の運動場にまったく人影がなく、おかしいなあと思ったら、雨で順延になったそうでした。この日の試合は晴天に恵まれ、郡山七中のグラウンドにはたくさんの球児が集まっていました。序盤の戦いはやや苦戦を強いられ、相手に2点の先行を許しました。しかし、次第に実力を発揮し、1点を返し、その後一挙に試合を逆転してしまいました。

一人ひとりが自分の仕事を確実にこなす姿と共に、強く印象に残ったのは、打たれたボールをきちんと処理する野手ばかりでなく、攻撃の際のランナーコーチや守備の際のライトの選手の1塁カバーでした。野球の決まり事としては当たり前のことだそうですが、チーム全体が連動し一丸となって試合を進める姿にチームプレーの神髄を見た思いがしました。打球を確実に処理する野手、バッターやランナーの目となり耳となり指示を送るランナーコーチ。不測の事態に備えて確実に怠らなくバックアップする外野手や捕手。そんな当たり前のことにきちんと取り組んでいる姿がとても印象に残りました。

先日の清掃活動もそうですが、一人でできる範囲には限界があります。部活動でも、学級でも、班活動でも、そのさまざまなメンバーが自分のなすべきこととそれを果たさなくてはならないという責任を自覚し、チームとして取り組むことで、全体としての限りない前進が期待できるのではないのでしょうか。おかげさまで、すばらしい場面に立ち会うことができました。

もう一つ、印象に残ったもの。それは、どこからでも見つけやすい『輝』の文字の入ったTシャツ姿。お休みのところ、多くの保護者のみなさん、木の枝でグラウンドに絵を描いていたボク。応援いただきありがとうございます。みなさんに支えられ三春中の部活動は健全に運営することができています。これからもどうぞよろしくお願ひします。

逆転して大量リードし、安心して試合会場を後にさせていただきました。

